

第128回東海技術サロン（CSTCフォーラム）

労働災害と安全衛生の実際－労災を防ぐには－

今回の東海技術サロンでは、会員様の発案により、労働災害と安全衛生に関する講演会を企画しました。安全に関する様々な視点からの多様な知見を得るまたとない機会となります。皆様のご参加をお待ちしています。

- 日時 : 令和7年8月28日（木）14:30–18:45
- 場所 : 東桜会館（名古屋市東区東桜2丁目6番30号）
講演会：1F第2会議室 交流会：5F東桜クラブ
- アクセス : 地下鉄 東山線「新栄町」駅1番出口より徒歩5分
桜通線「高岳」駅3番出口より徒歩5分
- 主催 : 東海化学工業会、公益財団法人 中部科学技術センター
公益社団法人 化学工学会東海支部
- 協賛 : 日本化学会東海支部、電気化学会東海支部、日本分析学会中部支部、高分子学会東海支部、日本油化学会東海支部、有機合成化学協会東海支部、色材協会中部支部、日本原子力学会中部支部、日本接着学会中部支部、表面技術協会中部支部、日本セラミックス協会東海支部、日本レオロジー学会中部支部

☆☆☆プログラム☆☆☆

- 14:30 開会 挨拶 東海化学工業会（会長：高尾尚史（豊田中研））
- 14:35 講演Ⅰ「**労災と安全衛生の実際と塗料業界向け労働災害体験 VR コンテンツの事例紹介**」
長瀬産業株式会社 機能化学品事業部 トータルソリューション部
山田純平 氏
- 15:20 休憩
- 15:25 講演Ⅱ「**ノンテクニカルスキル教育で事故防止**」
南川行動特性研究所（元 AGC）
南川忠男 氏
- 16:10 休憩
- 16:15 講演Ⅲ「**大学における事故の傾向と安全科学**」
名古屋大学 安全科学教育研究センター 准教授／環境安全衛生管理室
原田敬章 氏
- 17:00 講演終了
- 17:15 交流会 挨拶 公益財団法人中部科学技術センター（専務理事：武藤陽一）
- 18:45 閉会

- 参加費 : 会員、共催・協賛団体会員の個人・法人会員 8,000 円、
非会員 10,000 円、学生 3,000 円
*交流会費を含みます。交流会費を除いた参加費は設定されておりませんので、ご了承ください

- 申込方法 : 申込フォームよりお申し込みください↓
<https://forms.gle/tiTDYAGFy3rgtmma9>
 東海化学工業会 HP (<http://tcia.sakura.ne.jp/index.htm>)、
 中部科学技術センターHP (<https://www.cstc.or.jp/>)
 にも申込フォームを掲載。※ 申込フォームから申し込みできなかった場合は、必要事項を明記の上、メールにて tcia@cstc.or.jp 宛にお申し込みください。
 (必要事項) 氏名、勤務先及び所属(役職)又は学校名、連絡先(E-mail、電話)、
 会員/非会員の別
- 定員 : 80名(定員になり次第、締め切らせていただきます)
- 申込締切 : 令和7年8月21日(木)
- 振込方法 : 参加費は下記の「東海化学工業会」の口座へ、8月21日(木)までにお振込みください。
 銀行振込 [三菱東京 UFJ 銀行 名古屋営業部 (普) 0662250]
 振込先口座名義東海化学工業会 (トウカイカガ`クコウキ`ヨウカイ)
- 問合せ先 : 東海化学工業会 (事務局担当: 梅澤) tcia@cstc.or.jp TEL:052-231-3070
 〒460-0011 名古屋市中区大須 1-35-18 一光大須ビル7F
 中部科学技術センター内

講演要旨

「労災と安全衛生の実際と塗料業界向け労働災害体験 VR コンテンツの事例紹介」

長瀬産業株式会社 機能化学品事業部 トータルソリューション部 山田純平 氏



近年、作業の多様化や機械化の進展の影響から休業4日以上の方災死傷者数が増加傾向にあります。特に2009年から2022年にかけて、休業4日以上の方災死傷者数は約2万7千人増加しており、深刻な問題となっています。従来の方災予防手段として、座学や動画視聴といった方法がとられていますが、リスクに対する実践的な学習や意識醸成の十分な効果が得られませんでした。ソリューションの一つに労働災害体験VRがあります。従業員が没入感のある労働災害を仮想体験することで、製造現場における危険性を「自分ゴト化」でき、方災防止意識を高めることが期待されます。今回は塗料業界特有の事例をもとに制作されたコンテンツの事例を主に紹介させていただきます(VRのご体験も可能です)。

「ノンテクニカルスキル教育で事故防止」

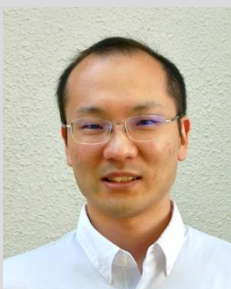
南川行動特性研究所(元AGC) 南川忠男 氏



「ノンテクニカルスキル」とは、テクニカルスキルを補って完全なものとし、安全かつ効率的な業務の遂行に寄与するスキルを言います。このスキルは、状況認識、コミュニケーション、リーダーシップ、意思決定、チームワークにより構成され、ヒューマンファクターに係るエラーを防止し、安全を確保していくための現場(指示する方も)がもつべきスキルということが出来ます。言い出す勇気、声かけ、振り返り、権威勾配の克服などはその構成要素です。近年、その教育効果を上げるため「自己を知れば事故が減る」のスローガンの下、質問紙法による行動特性評価で事故削減を目指している。この一部を紹介します。

「大学における事故の傾向と安全科学」

名古屋大学 安全科学教育研究センター 准教授/名古屋大学 環境安全衛生管理室 原田敬章 氏



大学では、その分野に精通した教職員だけでなく、未経験の学生や異分野で新たな研究をはじめ研究者等が、新たな発見のために試行錯誤を繰り返す研究活動を行っています。約2万人の構成員がいる名古屋大学では、一般業務や実験に伴い様々な事故が発生しています。軽微な事故が大半である一方、危険有害性のある化学物質による火災等の重大事故も発生しています。過去約20年間の事故の解析、それらの事故事例の有効活用の例として、本学の安全衛生活動や最新の安全科学の事例を紹介いたします。